

3. 2017 年度活動概要

国際英語と異文化理解研究会では、「英語教育と英語コミュニケーションにおける異文化理解と国際英語論的視点の重要性」をテーマに以下のような様々な研究活動を行いました。

先ず、研究会をほぼ毎月ように定期的に名城大学（ドーム前キャンパス）等で開催し、テーマに関連しての共同研究を行いました。研究会での主たる研究内容は、科学研究費基盤研究（C）「国際英語論に基づくアプローチの有効性—英語学習者の心的障害克服の実証」（平成 27 年度～29 年度）をめぐる行われました。この科研費助成研究に関して各人が研究分担に沿った研究を進める他、それぞれが国際英語に関する個人研究も実施しました。

研究会メンバーは例年 IAWE 学会や ELF 学会に参加し、研究発表を行うと共に、国際英語論研究の最新動向の把握に努めています。2017 年度は、6 月の IAWE 世界大会（於：シラキュース大学）では、小宮・吉川が「Grammatical and Pragmatic Features of Japanese English: an Analysis of 19 Essays」、塩澤が「A Model of “My English” as an International Language」、倉橋が「The Intercultural Competence of Japanese University Students」のテーマで、日本人英語に関する研究発表を行いました。JACET 関連では、2017 年 6 月の JACET 中部支部大会では、塩澤が「Integrating CLIL and CBI into Courses at Home and Abroad」のテーマで研究発表を行いました。また、2017 年 8 月の第 56 回 JACET 国際大会（於：青山学院大学）では、JACET SIG ポスター発表を行いました。

今年度も上述したような様々な研究活動を行い、本研究会のテーマに関する研究を一層深めることが出来ました。来年度も継続して研究テーマを追求していきたいと考えています。